



9月議会報告「一般質問」問・答 上田市人口の将来展望について

2016年10月

《部内資料》

メールアドレス: masahiro3660@mac.com 上田市下之郷 473-1 TEL38-4452・FAX38-7935・携帯 09015542698 【わたなべ正博後援会】

一定の政策を講じ人口減少抑制【平成72年の人口113,285人】

2015年5月、民間の合議体である「日本創成会議」の人口予測が日本中を揺るがしました。このままでは全国の半数に当たる896市町村、49.8%が消滅の可能性があるとというものでした。

その4カ月後、第2次安倍改造内閣発足と同時に地方創生が発表されました。政府も都道府県も市町村も一斉に人口減少への対処を最重要に政策課題として対応策の検討が始まりました。



地方創生の大きな目的は、出生率を上げ人口減少に歯止めをかけること、東京一極集中を是正し地方を活性化させることです。上田市では、昨年10月、上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、上田市版人口ビジョンを策定しました。

総合戦略の柱はものづくり産業の振興と基盤強化を図ること

Q 人口ビジョンを実現する施策が総合戦略です。従来施策の延長だけでは地方創生の目的を達成するのは難しいと考えるがどうか。

A この戦略の中で最も重要な課題と捉えています。地域の強みである製造業の集積を生かした仕事づくり、地域産業を支える人づくり、これによる雇用の創出を特徴としています。

具体的には、東信州エリアのものづくりの技術力を結集して、成長が期待される医療、介護機器分野といった次世代自立支援産業の創出や、UIJ

ターンを希望する若者を地域の雇用に結びつける取り組み、女性のキャリア形成による社会進出支援など、地域経済を牽引するものづくり産業のさらなる振興と基盤強化を図っていくというものです。今年度から施策が動き出し、まだ緒に付いたばかりです。

結婚出産子育てそれぞれのライフステージに合った支援や環境づくり

Q 上田市の合計特殊出生率の目標は、平成37年に1.7程度まで上昇させ、平成52年には2.0にするというものです。当然、切れない施策が求められますがどうか。

A 結婚を希望する若者へのサポート、妊娠期からのきめ細やかな子育て支援、また地域ぐるみの子育て環境の充実に取り組み、子供たちの未来につながる教育環境を整備するなど、よりニーズに合った施策を選択し、人口の自然減に歯止めがかかります。

子育て世代を首都圏から取り戻す

子育て世代を首都圏から取り戻す

Q 地域人口維持のためには、若い世代(男20〜29歳・女15〜24歳)の流出を食い止めることが大事ですが、就職先が少ないという現実もあります。この20歳前後の域外流出を前提として、その後の子育て世代の部分をいかに首都圏から取り戻すかが重要な人口維持戦略と考えるがどうか。

A 学生を対象とした就職や定住についてのアンケートでは、若者や子育て世代が暮らすために重要なこととは何かという問いに対して、子育てや教育環境が整っていることが約21%と最も多く、次いで、雇用機会に恵まれていることが約14%、また医療や福祉が充実

子育て世代を首都圏から取り戻す

くらし・困りごと
なんでも相談
気軽に声をかけてください

わたなべ正博のノート

- 1日 第10回焼とりンピック「2日まで」
- 2日 ・あいそめ祭り「2日まで」
- 3日 日本共産党演説会「田中公民館」
- 4日 上田駅前モーニングスピーチ
- 5日 9月議会閉会日
- 6日 ・会派代表者会「政務活動費」
- 7日 東塩田自治連研修会「6日まで」
- 8日 アナログ通信「絆」記事準備
- 9日 東塩田保育園運動会
- 10日 ・子どもたちが主役の給食を求めて
- 11日 ・ずくだせ農場感謝祭
- 12日 赤旗信州秋まつり
- 13日 ・中組自治会運動会「雨で中止」
- 14日 ・浅間池代表会
- 15日 アナログ通信「絆」づくり「完」
- 16日 戦争法撤回信州大学の会
- 17日 生協診療所定期検診
- 18日 生活相談「借金」
- 19日 観光議員連盟「視察対応」
- 20日 ・森林林業林産業活性化議員連盟
- 21日 あゆみ保育園運動会
- 22日 ・上田西高野球「古戦場グラウンド」
- 23日 山本宣治前祭「別所安楽寺」
- 24日 議会報告会「塩田公民館」
- 25日 観光議員連盟「視察対応」
- 26日 議会報告会「西部公民館」
- 27日 モルティ塩田街演
- 28日 ・塩田公民館文化祭「二日間」
- 29日 側溝の泥上げ
- 30日 ・議会報告会「中央公民館」
- 31日 上田駅前モーニングスピーチ

【10月】

(10月10日現在)

090-1554-2698

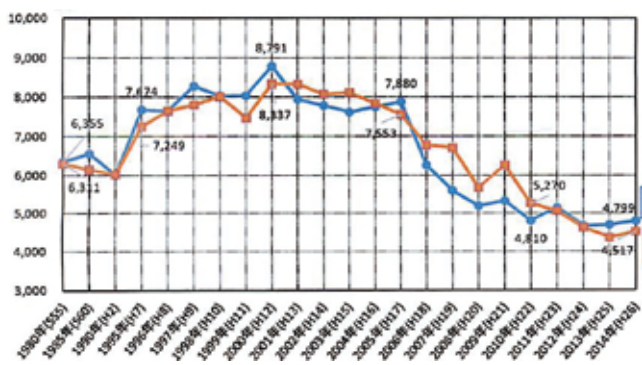
*社人研(国立社会保障・人口問題研究所)・・・人口と社会保障の関連を踏まえて調査研究を推進

していることが12%と
なっている。これらのこ
とから、より多くの人を
呼び込むには、当然のこ
とながら生活の基盤とな
る福祉、医療、教育、雇用、
子育て環境などの充実を
図り、上田市の魅力とし
て発信していくプロモ
ーションの展開も必要だと
考えている。

3世代をターゲット に定住増を

Q 具体的提案します。
定住を増やそうとする世
代のターゲットを決める
必要があります。学校の
卒業や就職、結婚や出産、
退職といった人生の節目
の出来事と居住地の移動
が連動することが多いの
で、必要とされる移住、
定住の組数です。私の考
える組数その1は20代前
半の若者夫婦、組数その
2は、30代前半の夫婦で、
4歳以下の子供1人同伴、
組数その3は60代前半の
夫婦、この3世代を中心
に定住増加時のシミュ
レーションをしたらどう
か。

A 議員指摘のとおりで
す。このことについては、



上田市の転入数と転出数の推移

首都圏で行っている移住
相談セミナーにおいても、
また子育て環境や就職先
についての相談が多く寄
せられていて、移住先を
決める上に当たっては大
きな判断材料になってい
ると認識している。市で
は、本年度若者世代を一
つのターゲットとした移
住体験ツアーの開催も予
定している。当面の間は
幅広い世代をターゲット
にして、少しでも多くの
方々に上田の住みよさを
知っていただき、そして
移住していただけるよう
事業を進めることが重要
であると考えている。

任期1年半の節目 と50年先の道標

Q 市長に伺います。人
口とは住民一人一人の人
生の数であります。抽象
的に全体として数字を設
定するだけでは何も変わ
りません。その意味で、
地方創生の本番は、これ
から始まる地域現場にお
ける住民が主人公とした
取り組みとなります。上
田市人口の将来ビジョ
ン、母袋市長が立てた目
標です。まず、残り任期
1年半、この期間、節目
目標として何を推し進め
るのか。また、50年先を
展望した道標をどう立て
ようと考えているのか。

「住民自治組織の設 置」「資源循環施設建 設地決定」「真田丸効 果を活かす」

A 今回回答は、地方創
生戦略にはこだわらない
前提で、この1年半の中
で優先課題、重要課題と
して捉えているもの、1
つは、地域内分権の確立
の中で、全市における住
民自治組織の設置。2つ
は、広域連合の事業では

あるが、市との協調で進
めていきます資源循環型施
設の建設地決定。加えて
資源循環型社会、これは
具体的にはごみ減量化、
資源化のさらなる推進。
そして、3つは、大河ド
ラマ「真田丸」、これによ
つてもたらされた効果、と
りわけ上田市という知名
度が向上したという大き
な要素がある。こういっ
たさまざまな効果を生か
して、引き続きの活性化
を図ること。そのために
も上田ブランドの育成に
積極的に取り組む必要が
あると考えます。これら
は全て未来へとつながる
施策展開だと考えます。

次に、50年先を展望し
ての道しるべ、ある意味
で大変難しいものがある
がしかし、この社会づく
りということにおいては、
基軸となるのは社会を構
成する人でございますの
で、人づくりにやはりウ
ェイトを置きながら、こ
れを支える教育にも強い
関心を持ち、永続的な努
力が求められることと感
じている。



支えてくれたすべての
みなさんに感謝

唐沢千晶さん

豊洲新市場
真相究明へ「百条委員会」
設置を各会派に申し入れ

大山とも子
党東京都議団幹事長

杉尾ひでや 民進党参議院議員
田村 智子 共産党参議院議員
たけだ良介 共産党参議院議員

山口光昭さん
「信州市民連合・9条の会」
三枝三七子さん
「絵本作家」
小林 瞳さん
「希望・長野ネット」
中川博司さん
「社民党長野県連幹事長」
下条みつさん
「民進党長野2区支部長」